

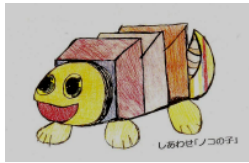
2014/2/1・・・第216回買場紗綾市 (SINCE 1996.3.2.)

買場紗綾市だより No.208

☆ ☆節分・立春・紗綾市音頭☆ ☆

「チンドンに 街は元気に踊りだす！」

♪♪今年も「厩橋チンドン倶楽部」登場、「重伝建の街 キラキラリ」♪♪



編集発行 買場紗綾市実行委員会 URL <http://www.kiryu.co.jp/kaiba/>

2002.5.28. 県観光協会表彰受賞・2003.5.24. 桐生ファッション大賞受賞・2005.4.16. 買場紗綾市 in 織物市場 (川越)・2012.7.9 桐生新町重伝建選定

季節のうた 三十九 「ペチカ」

今日から2月。3日は「節分」。4日は「立春」^{はつま}「初午」。庭の雪に埋もれた節分の豆や、お稲荷さんの初午祭に供えた雪をかぶった油揚げを思い出す。
そこで今月の季節のうたは「ペチカ」。

- 1 雪のふる夜はたのしいペチカ。 ペチカ燃えろよ、お話しましょ。
むかしむかしよ、 燃えろよ、ペチカ。
- 2 雪のふる夜はたのしいペチカ。 ペチカ燃えろよ、おもては寒い。
栗や栗やと、 呼びます、ペチカ。
- 3 雪のふる夜はたのしいペチカ。 ペチカ燃えろよ、じき春来ます。
いまに ^{やなぎ}楊 ^もも、 ^も萌えましょ、ペチカ。
- 4 雪のふる夜はたのしいペチカ。 ペチカ燃えろよ、誰だか来ます。
お客さまでしょ、 うれしいペチカ。
- 5 雪のふる夜はたのしいペチカ。 ペチカ燃えろよ、お話しましょ。
火の粉ぱちぱち、 はねろよ、ペチカ。

作詞は北原白秋。作曲は山田耕筰。大正12年12月の作曲。大正13年に『満州の唱歌』（南満州教育会副読本）に載る。大正14年には童話集『子供の村』に発表。ペチカは調理用と暖房用を兼ねているロシア風の暖炉。山田耕筰自筆の楽譜には「ペチカ」と書いている。

2番の「栗や栗や」は「栗屋栗屋」で、焼き栗を売る人の声。3番の「楊も萌えましょ」は「楊も燃えましょ」ではなく、楊も芽を出すでしょうという意味なんですね。ちょうど春を待つ頃。

第一土曜は楽しい紗綾市。紗綾市栄えよ、誰だか来ます。お客さまでしょ、うれしい紗綾市。売るのは文化の紗綾市に。
(文)

■ 買場紗綾市往来 廿八

天正十九年説、いまだ健在 ③

姫小路 通忠

新町の創設を巡って、論戦が過日行われた(1月16日開催)。本来ならば、公開にして一般の参加者を交えて、それぞれに根拠と疑問やらをぶつけて華やかにやるべきだった。その記録については、後日、発表があると思われるが、非公開だったことは今にして悔やまれる。内容が良かっただけに残念でたまらない。

本稿も新町の創設について、検討を加えてみる試みの一端であるが、未だ決定付けられる論拠を見出せないでいる。読者諸賢のご意見をいただきたいと考えているが、幾らかの事例を今後も列挙していきたい。というより提供し、論戦の場を醸し出したい。

慶長9年以後かの創設については前号で、初鹿野嘉右衛門に触れたが、主人の大久保長安にしても全国規模で西日本を中心に佐渡、伊豆、美濃、奈良といった周辺での活躍ぶりが記録されているので、江戸を絡めて往復日数と滞在期間を考えると慶長期では、関ヶ原役があった慶長5年から慶長7、8年までがやや当地(関東)にいた可能性が認められる。いいかえれば、両者の存在がないままでも、長安と同格と思われる大野八右衛門単独の当地滞在は十二分に考えられる。ただ先の論戦では時間の制約上、意見交換の場がなく各発表者の持論展開にとどまったものの、最終的には地元の役員の方の意見に集約されることになるのだが、今更、『市史』の必要性が提起されたのには少し、遅すぎたきらいもないわけではない。そして、発表者の一人の方から「慶長三年説」が紹介されたのであるが、この説は秀吉政権下のなかでの城下町建設ラッシュの一環としても有力視される。世の中は一定の安定期をむかえ、庶民の懐具合もそれなりで、金融、流通といった面から商人の力が台頭してくる時代を迎えていた。泉州堺の商人による鉄炮、火器類を主体とした南蛮との交易から、博多商人、近江商人(日野、湖東、高島を中心)、伊勢商人(松阪を中心)など徳川家康の東国入りから民族移動が大きく始まったのである。商人から大名になるものもいた。しかし、この秀吉の豪華絢爛(安土桃山風)の時代は、そう長くは続かなかった。秀吉の派手好みか寺院建築(庭園を含む)や貨幣経済を潤沢させたことには違いないが、天下平定という夢は瓦解する寸前であった。いわゆる二度の朝鮮出兵でもろくも秀吉の屋台骨は崩れようとしていた。

この状況下のなかで、関東に入った家康は先の主であった北条氏のヶ条を踏襲するも甲州流の統治でもって、伊豆を含む領域(250余万石。国内全体の約7分の1に相当)の治政にあたった。江戸城下の建設は勿論、河川の修復・保全、都市間の道路網の整備、貨幣の鑄造、度量衡の統一など様々な民政分野での改革を行っている。

そして、江戸期から明治にかけて桐生新町の立役者の一人であり、分限者であった5代目の佐羽(さば)清右衛門(代々襲名、江戸中期から吉右衛門家、孫兵衛家、栗田重蔵家を輩出)家に伝わる「佐羽家由緒書」によればである。文禄3年(1594)に初代清右衛門が当地へやってきている。町立の際の仕切りをしたとも伝えられ、その出身地は伊勢国相可(おうか)村で、伊勢松阪の太守、蒲生氏の奥州配置換えに順応したものか、当地へやってきた経緯は不明である。蒲生氏とともに多くの商人や工人が会津(当初、黒川といった。後の若松)を目指し、上方文化を当地方に根付かせていく。ひょっとしたら、佐羽氏は忍者だったのか、情報を巧みに利用して当地での経済基盤を確立していく。久方村の田村家の縁者に江戸初期、桜井清兵衛なるものがある。清兵衛は伊勢商人で三井家の始祖である三井高利の次兄で三井弘重といい、浄運寺に埋葬されているが、いうまでもなく三井越後屋の身代を築いた功労者でもある。桐生(新町)の何が、こういった商人の魅力となったのか、今回は伊勢商人の当地とのかかわりに触れてみた。(続)

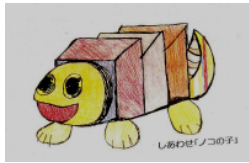
2014/2/1・・・第216回買場紗綾市 (SINCE 1996.3.2.)

買場紗綾市だより No.208

☆ ☆節分・立春・紗綾市音頭☆ ☆

「チンドンに 街は元気に踊りだす！」

♪♪今年も「厩橋チンドン倶楽部」登場、“重伝建の街 キラキラリ”♪♪



編集発行 買場紗綾市実行委員会 URL <http://www.kiryu.co.jp/kaiba/>

2002.5.28. 県観光協会表彰受賞・2003.5.24. 桐生ファッション大賞受賞・2005.4.16. 買場紗綾市 in 織物市場 (川越)・2012.7.9 桐生新町重伝建選定

今月の企画

- ① 節分！立春！初午！・・・春呼ぶ、福呼ぶ「厩橋チンドン倶楽部」が今年も登場します。北原雄一郎氏を代表とした10余名のメンバーが、買場紗綾市や天満宮の会場や本町通りを楽しく賑やかに練り歩きます。午前10時半頃から午後1時頃からの2回のチンドンパレードになります。
- ② 買場紗綾市音頭を(午後1時00分より)踊ります。今回も、さつきR・D・C《代表中野福代さん》の皆さんや広沢町の紅扇会皆さんの指導があります。みんなで楽しく愉快地踊りましょう。お陰様で、買場紗綾市音頭は色々な所で踊られています。これからも宜しくお願いします。
- ③ 《素敵な潤いの音楽》：お馴染みの“ハチャウル”(代表角田潤一さん)の皆さんによる南米の曲から歌謡曲までの演奏をお楽しみください。ほっと一息のひとときを大切にしましょう。
- ④ 買場紗綾市だより(208号)を発行します。◎姫小路通忠・岡田文夫両名の作品は好評連載中です。桐生新町の創設の謎???. ◎お店紹介 No.46
- ⑤ 本町通りで世界遺産キャンペーン・・・“世界遺産”登録実現に向けて、富岡製糸場伝道師協会のメンバーが最後の頑張りです。間もなくゴールです！
- ⑥ 「大人も子供もおもしろ科学ミニセミナーin 買場紗綾市」(サイエンス・インストラクター 丹羽孝良先生) リングキャッチャーと空気砲(気体の性質)、ピンホールカメラ(光・レンズの動き)、石けんからキャンドル(酸性、アルカリ性)等々。
- ⑦ キノピーバッジを販売します。一個200円です。(本部)

次の32店が出店します。

若宮(ゆば入り五目稲荷寿司)・佐啓(繊維製品・小物)・岡部(レースカーテン)・フォーリンホワイト(関根綾可)(桐生織物の小物：ポーチ、ブックカバー等)・辻商店(飲み物・おでん)・吉田(衣料品)・トップス村井(アクセサリー)・ゆず(洋服・器・小物)・染織工房いまくら(暖簾、壁飾り等)・島崎(作務衣・絹製品)・蔵(衣料品)・塚田ミシン(手芸材料・アクセサリー)・橋本メリヤス(ニット製品)・紅白(生花)・矢野園(お茶他)・藤屋(そば・うどん)・産直くろほねっと(産直農産物)・シンエイサービス(きのこ他)・辰見屋(和菓子)・大野屋(だんご)・中村貴一(アクセサリー)・アマゾン(金魚・ペット)・介護クラブ(焼きもの)・志多美屋(ソースかつ丼)・毒武(帯・スカーフ)・ヤマグチ(ショーツ)・今勇(藍染製品)・はぎれ工房(手芸品)・なかの(茶)・うまいや(キムチ・チヂミ)・ログビート(焼きそば)・ふれあい館(コーヒー)

2月のキャッチフレーズ

☆☆節分・立春・紗綾市音頭☆☆

「チンドンに 街は元気に 踊りだす！」

☆今年も「厩橋チンドン倶楽部」登場、“重伝建”の街 キラキラリ！

毎年2月はチンドンの楽しい練り歩きだ。「厩橋チンドン倶楽部」と買場紗綾市と天満宮民具骨董市の連携協力で実現して、チンドン、チンドン、チンドンで、11年目を迎えます。今では桐生新町の春を呼ぶ風物詩となって人気を博している行事のひとつです。

さて、「重伝建」選定後の2年目の年度が終わろうとしています。お陰様で行政マン、住民、建築士さん、大工さんの大勢の皆さまの努力によって、7棟の建物の修復が実現しました。(まだ工事中もありますが・・・)来年度は10棟予定だとか聞いております。少しずつですが、製織町の町並みの整備が始まりました。この事業は制度的に継続的に実施されてゆくもの、5年後、10年後の確かな街の景観を想像することが出来、胸がわくわくします。街は間違いなく元気を取り戻します。街が元気になること、人々が真に豊かになること、往来に沢山の子供たちの笑い声が響き、老若男女が行き来すること、街来者との楽しく文化交流や国際交流することは桐生市民の願いだ。群馬大学理工学部もあって、教育文化や自然に恵まれていて・・・いよいよ凄いいことになる。市民一人一人、桐生の街を再考しよう。「重伝建」選定の意義は深い。(森壽作)

今後の予定

- ☆ 平成26年 2月 9日(日) 第60回桐生市堀マラソン
- ☆ 平成26年 2月22日(土) イオン太田
- ☆ 平成26年 3月 1日(土) 第217回買場紗綾市 ◎買場紗綾市開設18周年記念です。
- ☆ 平成26年 3月22日(土)～4月 6日(日)

◎今年も「桐生新町町立祭423年」開催します。

☆平成26年 4月 5日(土) 第218回買場紗綾市 (桐生新町町立祭423年協賛)

◎桐生新町ひな祭り(旧家のお雛様を飾ります。)

売るのは文化！ 遊び心とお祭り気分！ もっと桐生ぐっと桐生！

編集発行：買場紗綾市実行委員会

〒376-0031 桐生市本町 1-3-10

発行者：森 壽作

TEL.0277-22-2001

FAX.0277-22-6435

e-mail. jmori@mvj.biglobe.ne.jp

以上